

令和7年度 退院調整に関する実態調査結果報告（概要版）

1 調査の目的

本調査は、市内居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャーを対象に、退院調整の状況および「入院・退院サポートマップ」「医療・ケアについてのもしも手帳」等のツールの認知度や活用状況について把握することを目的としています。

2 調査の概要

- (1) 調査対象者
 - ・市内居宅介護支援事業所 859 か所に勤務するケアマネジャー約 3,200 人
- (2) 調査の方法
 - ・郵送にて調査票を送付。無記名方式で回答、事業所単位で郵送にて回収。
- (3) 調査対象期間
 - ・令和7年9月中（1か月間）の退院調整状況
- (4) 回収結果
 - ・回答事業所数 587 か所／859 か所（回収率 68.3%）
 - ・調査票回収数（回答ケアマネジャー数）1,958 件 有効回答数 1,958 件

3 調査結果

- (1) ケアマネジャーの状況
 - ・基礎資格は 98.2%が福祉系資格（介護福祉士 77.2%、社会福祉士 11.7%、その他福祉職 9.3%）です。
 - ・経験年数は 15年以上が最多で 29.4%を占めました。10年以上が増加傾向で、55.0%と半数を超えています。
- (2) 利用者の状況
 - ・ケアマネジャー1人あたりの利用者数は 37.3人で、年々微増傾向にあり、平均すると1年あたり1人増加しています。
 - ・ケアマネジャー1人あたりの利用者の介護度は、「要介護2」（10.5人）が最も多くなっています。次いで、「要支援1・2」（9.0人）が多く、前回調査と比較して大きな変化はありません。
- (3) 退院調整対象者の状況
 - ・退院調整対象者は 1,313 人で、昨年度より減少しました。年代別では 80代が 46.7%で最も多くなっています。また、配偶者が「いる」のは半数に満たず、退院後の家族の支えがない利用者が多いと推察されます。
 - ・入院の原因となった主な疾患は、「整形外科系疾患」（21.0%）が最も多く、次いで「がん（末期）」（11.6%）、「脳血管疾患」（10.0%）でした。
- (4) 退院調整の状況
 - ・退院調整を行ったケアマネジャーは 47.0%で、昨年度より若干低くなっています。ケアマネジャー1人あたりの退院調整を行った件数は、1件（66.3%）が最も多く、次いで2件（21.1%）でした。
 - ・病院から退院支援の連絡があった割合は、75.2%であり、年々減少傾向にあります。疾患別にみると、「神経難病」（86.7%）、「整形外科疾患」（82.6%）、「その他難病」（82.4%）、などは連絡ありが多く、一方で「認知症」（61.5%）「消化器疾患」（61.9%）などは連絡ありが低くなっています。
 - ・病棟の種類別では、「連絡あり」は「地域包括ケア病棟」（93.8%）で最も高く、次いで「回復期リハ病棟」（90.9%）でした。これらに比べ「急性期病棟」（70.7%）や「療養病棟」（77.8%）はやや低くなっています。
- (5) 在宅療養支援に関する各ツールの認知度
 - ・入院・退院サポートマップの認知度は昨年度とほぼ同程度、もしも手帳は 3.1 ポイント高くなりました。
 - ・経験年数が5年未満の認知度がいずれも5年以上より低くなっています。

4 その他

「入院・退院サポートマップ」をはじめとした退院調整をスムーズにするための情報共有ツールは、本市のホームページからダウンロードできます。ぜひご活用ください。

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/iryo/zaitaku/taiinchouseitool.html>

<担当>

医療局地域医療課 横山、小林、中村

電話番号 045-671-2444

E-mail ir-zaitakuiro@city.yokohama.lg.jp